

平成23年度 第4回花見川区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日時 平成24年3月9日(金) 午後2時00分～午後4時10分
場所 花見川保健福祉センター3階大会議室
出席委員数 25名
欠席委員数 2名
事務局 10名
説明者 3名

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題 (1) 花見川区地域福祉計画の推進状況について
 - ・取り組み項目地区別一覧表 . . . 資料1
 - (2) 「地域支え合い体制づくり事業」事例報告について
 - 1) ふれあい見守りネットワーク設置事業について . . . 資料2
 - 2) 高齢者・障害者宅「ごようきき」サービス設置事業について
 - (3) 犢橋地域福祉交流館の開設について
 - (4) 次年度の推進協議会について
 - (5) 次年度の委員選出について
 - (6) その他
- 4 閉会

【2】議事要旨

委員定数27名のうち、25名出席、2名欠席を確認し開会した。
配布資料の確認。

議題(1) 花見川区地域福祉計画の推進状況について

事務局より地域福祉計画の取り組み項目地区別一覧表の訂正部分の説明及び、追加・修正項目の報告をした。

<質疑応答>

鶴岡委員 : 2月11日に地区部会だよりの創刊号を発刊したので、犢橋地区部会エリアの社協地区部会の充実の項目に追加していただきたい。

事務局 : 追加します。

原田委員長 : 来年度の進め方にも関係するので、事務局より他区の進捗状況の説明をしていただきたい。

事務局 : 中央区は推進協を4つの分科会に分け討議している。進捗状況の取りまとめを最近行ない、説明をしている。稲毛区は近い地域で東ねて4つのグループに分け討議している。現状の推進状況の調査を行なった。若葉区は要綱を改正し、要綱内に推進協の役割として、関係団体への周知と助言を追加し、広報啓発機能を盛り込んだ。運営企画委員会に7～8名の委員を置き、推進協の動きを企画立案する。それとは別に広報啓発活動する分科会を2つ設け、町内自治会・地区部会へ計画の説明を行なっている。緑区は推進協に4つの小委員会を設けた。1つは災害時の障がい者の対応。2つ目は見守りネットワークの構築。3つ目は災害時のマップ作り。4つ目は学校生徒、施設入所

者との交流で、現在、2つの小学校と4つの中学校が軽費老人ホームと交流をしている。美浜区は計画の進捗状況を取りまとめ説明をした。

- 山田委員 : 各区の説明をいただいたが、中央区には4つの分科会、稲毛区は4つのグループがあるとのことだが、それぞれ詳しく教えてほしい。
- 事務局 : 中央区は取り組み項目の中で最重点項目が1つ、重点項目が8つある。最重点項目は推進協全体で討議し、残りの重点項目を分科会で分けて行っている。分科会の4つの分類方法は、事務局で偏りの無いように4つに分けた。
- 山田委員 : 目的があって4つに分けた訳ではないのか。
- 事務局 : 目的がある訳ではなく、4つに分けた分科会にそれぞれの重点項目を割り振った。稲毛区も同様に地域ごとに4つのグループに分け、テーマは決めていない。それぞれの取り組みについて議論している。
- 原田委員長 : 若葉区で要綱を変更したとあったが、全市共通ではないのか。変更できるものなのか。
- 事務局 : もともと要綱の内容は同じだが、若葉区は推進協で実際に出向いて行って、周知活動を行いたいという要望が強く、新しい活動を明確にするために内容を一部変更した。
- 原田委員長 : それを進めると各区バラバラで、楽な方向に変えていったら骨抜きになるのではないか。
- 事務局 : 若葉区の場合は積極的に活動する為の変更で、事務局としても協力せざるを得ない。逆の方向に流れるようならば、当初の要綱の趣旨と違うので思い留まっていた。
- 原田委員長 : 分科会等をやって、その結果や効果は出ているのか。見直した各区の地域福祉計画は推進されているのか。
- 事務局 : 始まったばかりなので、結果は出ていない。来年度より出てくるのではないかと思う。
- 原田委員長 : 結果が出ないなら意味がない。花見川区は出来るだけ手間をかけないで、効果を出したいと考えている。美浜区以外の区は分科会等をやっているが、花見川区は来年度以降の検討としたい。現在は考えていない。
- 蔵屋委員 : 推進協設置要綱は何のための配布か。参考のためか。
- 事務局 : 次第にもあるが、推進協委員の改選のために配布した。
- 蔵屋委員 : 設置要綱第2条に推進協は審議機能であって、実行部門ではないと思うが、先程の話では実行をしたいから要綱を変えたとの話があったが、主旨に沿わないと思う。他区では分科会等を作って実行までやるように聞こえたので確認したい。
- 原田委員長 : 分科会は実行ではない。若葉区は自治会や地区部会にお願いに行っているだけで、もっとやって下さいとお願いしているだけではないか。
- 蔵屋委員 : 実行を推進するためのお願いということか。それなら納得する。
- 事務局 : 所掌事務の第2条(1)に広報啓発活動とあり、若葉区が行っていることは広報活動である。
- 原田委員長 : 自治会、地区部会に広報啓発活動をして、実行してくださいとのお願いである。
- 蔵屋委員 : 実行機関は決められている。そこへの働きかけということか。
- 原田委員長 : そうである。

議題（２）「地域支え合い体制づくり事業」事例報告について

- 1) ふれあい見守りネットワーク設置事業について、黒田委員より、花見川団地ふれあいの家「絆」のオープンまでの経緯及び詳細説明と認知症になっても安心して暮らせる地域づくりのための認知症徘徊模擬訓練実施案の説明があった。

<質疑応答>

蔵屋委員：先程の話の中で、学習の話が出たが、全国で認知症サポーター研修を行っていて、市でも高齢福祉課が担当で力を入れてやっている。そういう周知等はされているのか。

黒田委員：周知は民生委員と自治会役員が行っている。認知症サポーター100万人キャラバン等に担当者が出席して勉強しているが、サポーター研修はやっていない。オレンジリング等も検討はしている。

蔵屋委員：オレンジリングを着けた人が多くなり、参加するのも良いと思う。キャラバンメイトで講師派遣もしてくれるので、地域の方々に知識を身に付けていただくのも良いのではないかと。

鈴木勝委員：発見、通報とあるが、認知症徘徊役の人は分かるようになっているのか。探す人は分からず探すのか。仕掛け等はどうか。この後、どう続けていくのか、どのように応用していくのか。

黒田委員：なるべく真に迫って行かないたい。京成の駅、バスは事前に人が分かるように頼んでおく。スーパーなんかは全然わからない感じでやりたい。これ以降はそこまで考えていないが、反省会やいろいろな方に知恵を拝借しながらやっていきたいと考えている。

金子委員：当日は何人くらいの参加になるのか。

黒田委員：当日は50人くらいになると思う。

- 2) 高齢者・障害者宅「ごようきき」サービス設置事業について、加藤委員より事業実施の詳細説明があった。

<質疑応答>なし

議題（３）犢橋地域福祉交流館の開設について

事務局より概要説明。

原田委員長：鶴岡委員補足説明はありますか。

鶴岡委員：平面図、文面にもあるが、地域福祉活動室①・②、フリースペースなどがある。利用方法はグループ登録後の事前申し込み制だが、囲碁・将棋は個人で来ても、交流できるよう個人参加を可能とした。オープンスペースは地元の声で、子どもたちが自由に遊べる場として、こちらも個人参加可能とした。

<質疑応答>

山田委員：運営主体（受託者）千葉市社会福祉協議会犢橋地区部会とあるが、この部分を説明していただきたい。

鶴岡委員：市との契約書があり、地区部会が受託者になっているため、（受託者）という形にしてある。

山田委員：具体的に受託とはどういうことか、市の方から回答していただきたい。

事務局：管理室の利用申請等の受付業務を地区部会に委託している。小中台にも地域福祉交流館があり、こちらは千葉市社会福祉協議会の本体に委託している。犢橋の地域福祉交流館については、1階の利用が決まっていない等の諸事情があるため、地元の犢橋地区部会に受付業務を委託している。

- 山田委員 : もちろん有料で委託しているということか。
- 事務局 : 人件費が主な経費となっている。
- 蔵屋委員 : 小中台の地域福祉交流館は1階・2階オープンしているが、犢橋地域福祉交流館は1階がまだオープンしていないということは、何か計画があるんでしょうか。併せて使用した方がメリットがあるのではないかと。
- 事務局 : まだ使用が決まっていない。どのような施設を入れようかと検討中である。市の目標としては平成24年度中には、何かしらの施設を入れようと考えている。

議題(4) 次年度の推進協議会について

原田委員長より次年度の推進協議会の進め方について意見を聞いた。

<質疑応答>

- 原田委員長 : 先程、各区推進協の説明等もあったが、その辺りも含めて来年度からどうしていくか、ご意見があれば聞かせていただきたい。幸い花見川区の推進協の委員は町内自治会長、地区部会長、地区連会長がいるので、広報活動等は地元に戻ってすぐに周知できる体制だと思っている。なので、分科会等を作る必要があるのかと考えているが、あまり手間のかかることはしたくない。町内自治会町、地区部会長、地区連会長がいるから、地域と繋がっていると思うが、金子委員はいかがか。
- 金子委員 : 推進協後の地域の会合等ですぐに伝達出来るから現状で良いと思う。私は区連協の立場で出席しているが、いろいろな場所に出席しているので、伝えることは可能である。
- 原田委員長 : 山田委員何かないか。今のままで良いか。
- 山田委員 : 問題があって分科会を目的別に作るならば意味があるが、今は特に問題は思い当たらないので、今のままで良いと思う。
- 原田委員長 : 黒田委員は。
- 黒田委員 : 話が詰まれば分科会を作ることを考えても良いのではないかと思う。人数が多いと活発な意見も出にくい部分もあるので、問題ごとでも地域ごとでも良いので、分かれて議論するのも良いことだと思う。
- 鈴木勝委員 : 私は推進協に地区部会の代表とかではなく、NPO法人として出席しているが、推進協の主体は社協の地区部会という事でやっていて、それはそれで良いと思っている。推進協が出来ると、いろいろな案が出て、推進協は議論する場であって実行部隊ではないという話になったと思う。では、実行部隊は誰なんだという話になり、それは地区部会ですという仕掛けになったと思う。若葉区の推進協の話があったが、知人が若葉区推進協の委員に話を聞いたが、話だけで実行しないと効果がないという不満というかジレンマがあり、実行しなければいけないという流れになり、分科会が出来たと聞いている。では、花見川区はどうするかとなるが、主体は社協の地区部会・自治会で良いと思う。地域との繋がりが良いと思うが、それだけではなく、別の動きも取り入れて行くべきだと思う。例えば私は地域支え合い体制づくり事業も、推進協から情報を得たのではなく、別の県とか市から情報を得た。その様な動きも大切だと思う。マンネリ化の打破のために人も変えていくべきだと思う。新しい動きを入れて少しずつ変えていくべきだと思う。
- 原田委員長 : 具体的に言うと、どういうことか。
- 鈴木勝委員 : 主体は社協の地区部会で良いが、活動内容も活動地域も広範囲で捉えるべき

で、もっと別の方法も模索すべきと考える。

原田委員長：市の補助事業は推進協にも募集が掛かっている。その様なこともある程度ここで議論して、選んでいくということか。

鈴木勝委員：既存事業は既存事業で良いが、別の方法も模索すべき。新しい活動に関しては新規事業活動委員会等と名前を付けて新規活動も模索すべきである。弱者救済だけが福祉ではない。私の考えは元気シニアが生きがいを持って、シニアを楽しんで生きていただくのが私の精神である。

原田委員長：区の地域福祉計画を見直した段階で、一度全部取り入れて見直したつもりだが、もう変更すべきか。

鈴木勝委員：否定している訳ではなく、追加していくべき。

原田委員長：見直した計画ですら広がっていない。一部では進んでいるが、また新しいことをやるよりも、今の計画を実践していく方向で進めるべきではないか。

鈴木勝委員：別の方向、方法も目指すべきではないか。地区部会活動で出来ないものとか、別の角度のものとかをこの場で検討していくことも必要だと思う。活動を検討する分科会等を作ってやることも良いと思う。

原田委員長：実際問題、担い手の高齢化も進んでいるし地域の人を動かして、何かやるのも難しいし、無理がある。

鈴木勝委員：一緒にやる人もいると思うが。

原田委員長：それがいない。

鈴木勝委員：呼びかけをしていないから表に出てこないのではないか。

原田委員長：ゼロではないが非常に少ないと思う。

鈴木勝委員：だから、その様なことを検討する準備委員会とか審議委員会等を作ってはどうかと提案している。

金子委員：実際に活動しているのはみな町内自治会である。高尚な理論は結構だが、実際にこれを動かしているのは自治会の人たちなので、そこを良く考えていただきたい。幸い私たちは実行部隊を持っていて、いろいろな活動が出来る立場だが、高齢化が進んでいる地域もあり一律には行かない。もっと具体的にどうやれば動けるとか、どうやったら良いんだというところから聞きたいと思う。

大山委員：私の地域では自治会に若い人たちが入ってきたこともあるが、今まで通りでもやる気があれば出来ると思うし、議論しなくてもやっているところはやっている。

齋藤委員：こてはし台自治会は高齢化率が40%を超えた。これから社協地区部会で積極的な見守りを検討している。少子化問題もあるが、時代とともに入居者が変化してきていて、少しずつ子どもの数が増えて、子どもの方にも目を向けるのも我々の仕事だと思っている。なので、他地区がどのような活動をしているのかをもっと知りたい。密な情報交換を行なった方が良いと思う。活動状況をさらっと報告するのも良いが、新しい取り組みや変わった取り組みは重点的に議論していくべきではないかと思っているので、来年度はそうにしていただけるとありがたい。

原田委員長：今年度もそのつもりで、事例発表を前回から2件ずつやってきたが、新年度は事例報告を中心でやるのも良いし、その中で分科会等が必要ならば作れば良いという感じでどうか。

齋藤委員：社協から情報を流してほしい。

原田委員長：依頼があれば、最近の社協の動きだとか、方向性等を説明させても良いと思

う。

齋藤委員：先程のような各区の情報もどんどん出して欲しい。

原田委員長：次回、24年度の第1回の推進協で議論していく形でよろしいか。

議題（5）次年度の委員選出について

事務局より次年度の委員選出について説明した。

<質疑応答>なし

議題（6）その他

事務局からの議題はなし。

今年度最後の花見川区地域福祉推進協議会なので原田委員長、東野副委員長より一言ずつご挨拶をいただいた。

最後に事務局より委員の皆様に一年間の御礼を申し上げ、午後4時10分、平成23年度第4回花見川区地域福祉計画推進協議会は閉会した。